

平成 23 年度における契約状況のフォローアップ

平成 24 年 8 月
独立行政法人国立がん研究センター

1. 平成 22 年度と平成 23 年度に締結した契約の状況

(単位：件、億円)

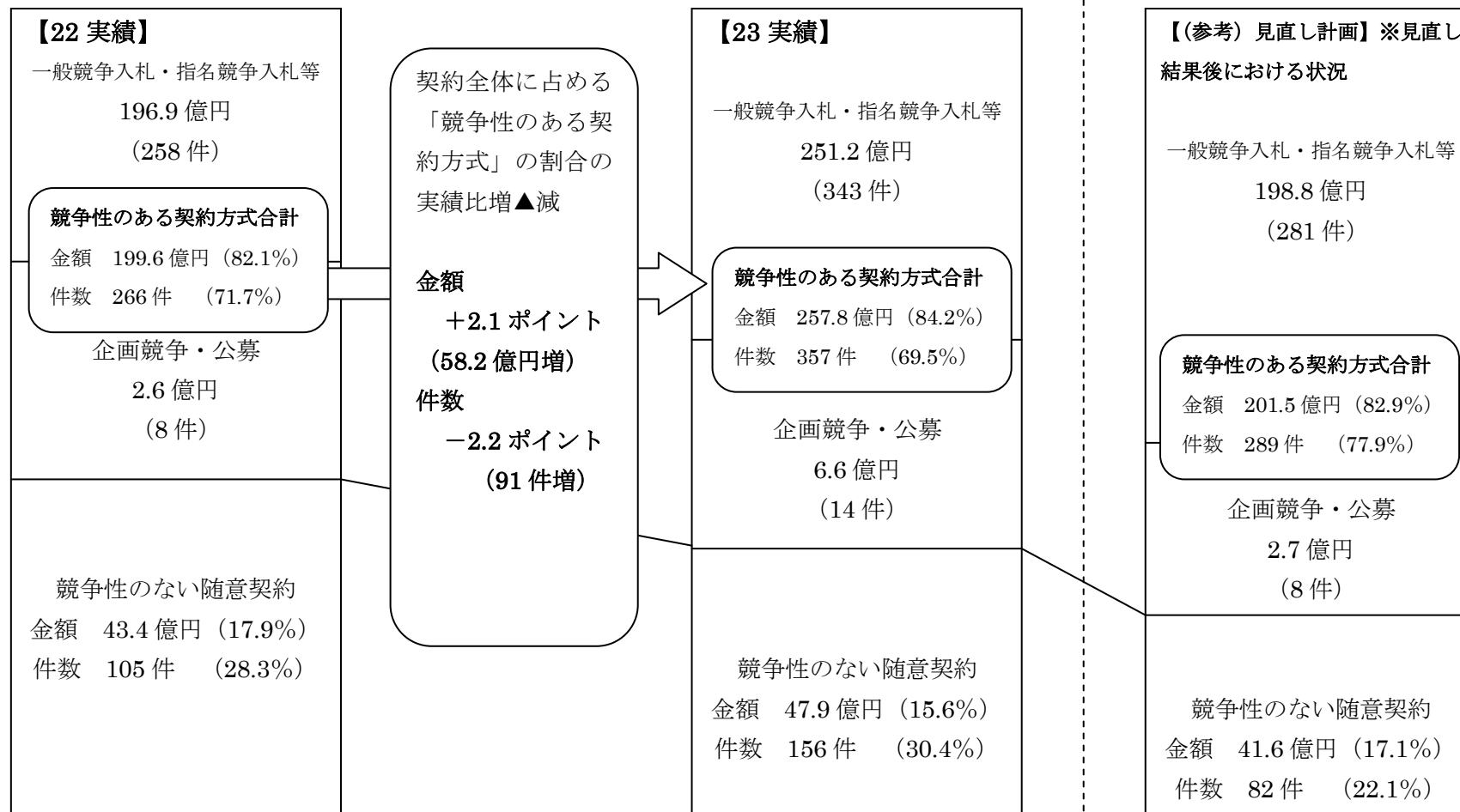
	平成 22 年度		平成 23 年度		比較増△減		見直し計画	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(69.5%) 258	(81.0%) 196.9	(66.8%) 343	(82.1%) 251.2	(△2.7%) 85	(1.1%) 54.3	(75.7%) 281	(81.8%) 198.8
企画競争・公募	(2.2%) 8	(1.1%) 2.6	(2.7%) 14	(2.1%) 6.6	(0.5%) 6	(1%) 4	(2.2%) 8	(1.1%) 2.7
競争性のある契約 (小計)	(71.7%) 266	(82.1%) 199.6	(69.5%) 357	(84.2%) 257.8	(△2.2%) 91	(2.1%) 58.2	(77.9%) 289	(82.9%) 201.5
競争性のない 随意契約	(28.3%) 105	(17.9%) 43.4	(30.4%) 156	(15.6%) 47.9	(2.1%) 51	(△2.3%) 4.5	(22.1%) 82	(17.1%) 41.6
合 計	(100%) 371	(100%) 243.0	(100%) 513	(100%) 305.6	(100%) 142	(100%) 62.6	(100%) 371	(100%) 243

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 比較増△減の()書きは、平成 23 年度の対 22 年度伸率である。

(注3) 見直し計画の計数等は、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて (平成 21 年 11 月 17 日閣議決定)」に基づき公表した見直し計画である。

(参考) 図表 平成 22 年度と平成 23 年度に締結した契約の状況



(注) 「一般競争入札・指名競争入札等」には、不落・不調の随意契約を含む。

2. 見直し計画に掲げた競争性のない随意契約の割合に到達しなかった主な理由

平成 23 年度において、随意契約見直し計画の見直しの視点に照らし競争性のない随意契約を締結せざるをえない案件が生じたため。なお、新規案件は、研究費遂行にあたって、役務契約に関して、調査・分析が専門性が高く、かつ確実に業務を遂行出来る専門業者に、1 年目は入札により業者を選定し、専門性が高いため、一者応札により業者決定されたものについて、契約審査委員会の審議を経て、随意契約に移行した事例等である。また、病院情報システム（電子カルテ等）や当センターのネットワークの保守契約について、経費節減を目的として保守内容の実態を見直し、これまで応札ベンダーとの随意契約であったものを、今般、各システム毎に再委託先の業者と当センターの直接契約としたため件数が増えた。

3. 平成 23 年度において、随意契約から一般競争入札等、企画競争、公募に移行した主な契約

① 一般競争入札へ移行

(ア)	照明器具管球類の一括契約	300 万円
(イ)	ダストボックスの一括契約	180 万円
(ウ)	地上デジタルテレビの一括契約	336 万円

② 情報システムネットワーク関係の契約相手方見直し

(ア)	情報システム運用業務委託業者と直接契約	1.3 億円
-----	---------------------	--------

4. 一者応札・応募の改善状況

(単位：件、億円)

		平成 22 年度	平成 23 年度	比較増△減
2 者以上	件数	174 (69%)	155 (46%)	△19 (△23%)
	金額	135.9 (72%)	154.3 (62%)	18.4 (△10%)
1 者以下	件数	80 (31%)	184 (54%)	104 (23%)
	金額	51.7 (28%)	92.9 (38%)	41.2 (10%)
合 計	件数	254 (100%)	339 (100%)	85 (100%)
	金額	187.7 (100%)	247.3 (100%)	59.6 (100%)

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 合計欄は、競争契約（一般競争、指名競争、企画競争、公募）を行った係数である。

(注3) 比較増△減の（ ）書きは、平成 23 年度の対 22 年度伸率である。

5. 一者応札、一者応募に係る改善方策 (URL <http://www.ncc.go.jp/jp/chotatsu/kohyo/pdf/kaizen.pdf>)

6. 法人と一定の関係を有する法人との契約状況 ※該当がない場合

平成 23 年 7 月 1 日以降に公示・公募等を行った案件のうち、当法人の関係法人等が契約の相手方となった案件はなかった。

(注1)「独立行政法人の行う契約に係る情報の公表について」(平成 23 年 6 月 3 日内閣官房行政改革推進室長)により、平成 23 年 7 月 1 日以降に公示・公募等がされた案件のうち、独立行政法人と一定の関係を有する法人が契約の相手方となる案件については、当該法人との間の取引等の状況等を公表することとされている。

(注2) 関係法人等とは、以下の類型に該当する法人をいう。

(1) 関係法人：次の①及び②のいずれにも該当する法人

①当法人の役員経験者が再就職している、又は課長相当職以上の職の経験者が役員等として再就職している。

②総売上高又は事業収入に占める当法人との間の取引割合が3分の1以上である。

(2) 特定関連会社：「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」第 107 に規定する会社（当法人が議決権の過半数を所有等）

(3) 関連会社：「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」第 118 に規定する会社（当法人が議決権の 100 分の 20 以上を所有等）

(4) 関連公益法人等：「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」第 129 に規定する公益法人等（理事のうち当法人 OB が占める割合が 3 分の 1 以上等）